

川崎葉子講演会について

3月12日（月）遺愛生向けには12時から、一般向けには18時半より遺愛の講堂で川崎葉子さんの講演会を開催しました。川崎さんは福島県双葉町（福島第一原発から3 km）で被災され、関東や静岡を転々とした末に福井県へ避難された方です。とてもエネルギッシュで、それこそ「生きる力」に満ち満ちている方だという印象を持ちました。

川崎さんは、原発の放射能汚染のために自宅に再び住むのは困難と考え、土地も、家も、家具も、衣服も全部あきらめています。もちろん、簡単にあきらめることができたわけではありません。講演会ではDVDで、一時帰宅をしたときの双葉町の自宅を映していましたが、物が散乱しどうにも手が着けられない自宅の様子を久しぶりに見た川崎先生は涙目で、肩を落としている様子が印象的でした。

しかし「後ろばかり向いては一步を踏み出せない。先は見えないけど、一步ふみだす」と講演で強調していました。

川崎さんのご主人は震災以降体調を崩し入院しました。孤軍奮闘、福井県では塾の講師をやり、家族の生活費を稼ぎ出し、彼女のもとに送られてきた大量の支援物資を、避難して



いる方々に無料提供し、東電に対して団体交渉で損害賠償請求をする準備を進め、講演で全国各地を飛び回っています。

「女性は本来強い！女性は、どんなに現状が悲惨でも、今ある現実から歩み始めることができる」と言っていました。でもその強さの背景には、震災前から培った人と人とのつながりがあるのではと思いました。遺愛の生徒達にも、川崎さんのような「生きる力とそれを支える人とのつながり」を築いて欲しいなと願います。

2012年3月14日